

都市景観と

第25回福岡市都市景観賞記念講演会

屋外広告の 新しいしくみを 考える【対談】



福岡の顔とも言える西日本一の歓楽街、中洲。一般的に氾濫する広告物は街の景観を損ねるものとの考えもあるが那珂川の川面に映えるネオン群は夜の風物詩となっている。時代の変化の中で、市民の広告に対する評価は分かれるところである。

清須美 匡洋

MASAHIRO KIYOSUMI

中村 俊介

SHUNSUKE NAKAMURA



都市景観に 求められるもの

清須美／ひと口に都市景観といっても、1,000万人の大都会と100万人前後のいわゆる政令指定都市クラス、10万人くらいの都市、それよりもっと小さい町、それぞれに求められるものが違うんじゃないかと思えます。行政がよく掲げる「美しいまちづくり」という分かりやすい目標があるんだけど、美しいということはまちの魅力の一部であって、「美しい」以外にもう少しいろんなことを価値として提供しなければいけないんじゃないでしょうか。

中村／建築学科の学生だった時はとにかくシンプルの方がきれいでいい

とあってたんです。でもメディア系をやりはじめるってそういうことじゃないような気がしてきて。ぐちゃぐちゃしいても都市は「楽しい」の感じがばんなじゃないかと思っています。清須美／僕は、奈良で育って奈良公園という風致地区にいたので、美しい楽しみというのもあると思う。ディスプレイも美しい背景があるからこそ楽しいでしょ。

中村／そうですね。結局都市の魅力をつくる時には、中心になるテーマが大事なんだと思います。福岡はけっこう特徴があるはずなのに、街並みを見ると他の都市とそんなに変わらない。それは、中心になる考え方がモヤッとしてるからじゃないかと、福岡の持つポテンシャルを考える時に「食べ物

profile

九州大学大学院 芸術工学研究院 教授
福岡市都市景観アドバイザー委員、福岡市屋外広告物審議会委員

1956年奈良県生まれ。九州大学大学院芸術工学研究院デザインストラテジー部門教授。統合新領域学府副学府長及びユーザー感性学専攻専攻長

環境デザイン、都市景観、商品開発、コミュニケーション及びセールスプロモーションプランニング、イベントプロデュース、文化事業開発、営業力開発などの多岐にわたるプロジェクトを総合的にプロデュースしつつ、現在はデザインストラテジー、デザインブランディング、感性クリエイションを専門として九州大学教授に兼任し、産学をつなぐネットワークを活かした、さらに幅広い活動を行っている。

株式会社しくみデザイン 代表取締役
九州工業大学 特任准教授

1975年生まれ。名古屋大学建築学科卒業後、九州芸術工科大学にて博士号取得。2005年に株式会社しくみデザインを設立。

・デジタルコンテンツグランプリ東北 グランプリ
・大学発ベンチャービジネスプランコンテスト グランプリ
・東京インタラクティブアドアワード ブロンズ
・デジタルサイネージプレアワード 技術賞
・中小企業優秀新技術新製品賞 優秀賞
・キッズデザイン賞 クリエイティブ部門
・芸術工学会20周年記念学術賞

清須美 匡洋
MASAHIRO KIYOSUMI

中村 俊介
SHUNSUKE NAKAMURA